



今後の実装技術の発展のために！！

小岩 一郎*

近年、電子デバイスを作製する際の実装技術の重要性は、エレクトロニクスに関わる人々に深く認識されていることと思います。製造業離れが深刻化するわが国において会員数が減少する学会が多い中で、本学会の会員数が増加していることから、実装技術の重要性が深く認識されていることが明らかだと思えます。ユビキタスネットワーク社会の発展のためには、電子デバイス機器の携帯化が必要条件であり、高性能化・多機能化・小型化を推進しなければなりません。そのキープレイヤーが実装技術です。日本の実装技術は高い水準にありますが、ますます重要性を増す実装技術の向上のためには、必要なことがあります。それは、若い人の教育と次世代と明日の技術の融合です。日本では、実装技術の教育を行う大学は少なく、若手技術者が実装技術の教育を受ける機会が少ないと思われれます。また、実装技術の性質上、明日の技術も重要であり、学会としてもアクションすべきだと考えております。また、技術者同士のコミュニケーションの場も広げたいと考えております。学術講演大会などの開催もこの施策の1つでもあるといえます。

本年の講演大会は、3月11日から13日まで、本間英夫教授を講演大会委員長として関東学院大学で開催されます。このような状況の下で、本学会も、さらなる発展のために今回の講演大会では新しい3つの企画を実行します。

①チュートリアルセッションの新設（教育）

よこはま高度実装コンソーシアムとの共催で初心者を対象とした半日の実装技術に関する「チュートリアルセッション」を11日の午前中に開催します。

②ものづくりセッションの新設（明日の技術）

次世代の技術を論議する通常の論文発表の他に、明日の技術を論議する「ものづくりセッション」を11日から13日まで行います。一部、展示も行います。

③ポスターセッションの新設（交流の拡大）

多くの学会で採用されているポスターセッションを本学会でも採用することにいたしました。

上述のように、今回の講演大会で新しい企画を打ち出すことができた背景には、企画実行体制の変更によるところも大きいといえます。今年度から大会委員会の企画実行体制が改組され、井上博文大会委員長が中心となり、講演大会の準備組織を従来の実行委員会だけでなく、論文委員会と実行委員会に分け、それぞれに明確な使命を与えることにより、新しいセッションを創設することができました。

今回は、最初の試みでもあり、有効に機能するか心配しましたが、各委員の献身的な努力により、たいへん効果的に機能しました。

これからも、エレクトロニクス実装学会へのご支援、ご協力をお願いいたします。また、本学会のますますの発展を祈願しております。